

アンネ・フランクパネル展実施報告

石川県川北中学校 谷口 史恵

1. パネル展実施の概要

開催期間:2023年11月21日(月)から12月8日(金)9:00~16:30

※うち一般公開は12/5~7日の3日間のみ

場所:川北中学校ランチルーム

主催:川北町教育委員会

※パネル設置にあたり、町の人権擁護委員の方もお手伝いに来てくれた。

※町の広報にパネル展実施に関する記事を掲載してもらい、一般の方にも開放した。

→一般の方々(16名)や地域の小学生(6年生50名)が見学にやってきた。



2. パネル展に関連した取り組み

①11月2日(木)~12月8日(金)

図書室前にてアンネ・フランクに関する特設コーナーの設置



②11月22日(水)5・6限(14:00~15:30)講堂にて

対象 全校生徒(227名)

講演会 「ハンナのかばん~悲しみを希望に変えて」

講師 NPO 法人 ホロコースト教育資料センター

理事長 石岡史子さん



③11月29日(水)3限(10:40~11:30)、6限(14:30~15:20)

対象 2年生各クラス

道徳授業 「アンネのバラ」

講師 町人権擁護委員 畑中敦子さん



④12月 8日(金)朝読書 8:05~8:20

対象 1年生各クラス

絵本読み聞かせ「アンネのバラ」

講師 町人権擁護委員 穴田さん、教頭 谷口



3. 来場者の感想

【1年生】

アンネの殺されるときに気持ちがどんなに辛いことわかりました。何が起るか、どうなるかも分かっていながらそこに行くのは恐怖だけではなく色々な気持ちがあったと思いました。

私は、アンネ・フランクには元々興味があり、本を読んだり調べたりしました。でも、今回のパネル展でアンネの生涯やユダヤ人の様子、裏切りなどが詳しく知ることができて興味深かったです。特に私は、ミープ・ヒースが保管していたアンネの日記を父オットー・フランクに手渡されたパネルに心が苦しくなりました。その日記をもらった時オットーさんはどう思ったのかと考えると悲しくなるし、アンネのことを少し安心したのではないかと思いました。今日見たことを生活の中で活かしていきたいです。

アンネの日記の絵本は見たことあって大体はわかっていたけど、今日見てみて全然知らなかったことがたくさんありすごくびっくりしました。多くのユダヤ人が職を失ったり虐殺されたりしていたのがすごく悲しいしとても残酷なことだとわかるのが怖いと思いました。今こうやって過ごしていることが普通じゃないんだと思いました。

ユダヤ人っていうだけで、恋愛も制限され、外出時間も制限されおかしいし可愛そうだと思った。純ドイツ人を作るためにユダヤ人と結婚していた人も関係を切らないといけないのもおかしいと思った。たった数日で100万人もの人が殺されて可愛そうだと思った。自分の車に乗るのも制限され電車も自転車も何もかもが制限されていたとわかった。水晶の夜事件は一気に沢山の人が死んだという事実を知って、この世にあっていい事件なのかなと思った。

ユダヤ人っていうだけで迫害され、600万人もの人が失業し教員の人も来たらだめって言われるのは可愛そうだなと思いました。ユダヤ人の血が飛び散るみたいな歌を歌って行進しているのはとても怖いなと思いました。これを見て昔のユダヤ人ことは絶対に忘れてはいけないなと思いました。これからこんな事があった事を忘れないように生きていきたいです

やっぱり戦争は怖くてとても辛いものなんだなと思いました。私は沢山の人が積み重なって死んでいる写真を見て人ってこんなにゴミみたいに積まれていくものなの？と衝撃を受けました。こんなことでまだ幼い子など生きたい子たちが殺されていくんだと分かりました。

最初に思ったのは、自分達と同じような年齢の普通の女の子がどうしてユダヤ人というだけでこんなにも苦しい思いをしなければならないのかという思いでした。ナチスのヒトラーの発言していた通りに人々は行動し、少しでも反抗したり少しでも自分達と違うことがあったりしたら殺してしまう。正直な気持ちは怒りしか湧いてこなかったです。意見や色、形が違うだけでどんなことをしても悪いことになる。

【2年生】

当時私と同じぐらいの歳のアンネはユダヤ人というだけで迫害されました。2年間も外にも行けず隠れて過ごしていました。たった全体の1%ぐらいの人々が悪いと言って全員で数百万人の人の命を奪いました。これは、政治家や偉い人だけの問題じゃないとアンネが言っていたのにすごく共感しました。みんなしているからと言って自分もするのは違うので、私も気をつけたいです。

アンネ・フランクは第二次世界大戦中のユダヤ人迫害の被害者の一人として「すべての人が尊重されること」を死に至る前に残した伝えることだったということに感動しました。

アンネは生きている間に沢山のつらい思いをして精一杯生きていたと思うと凄いなと思いました。自分は小学生の時にアンネ・フランクの漫画を読みました。絵だけでも戦争は恐ろしくて怖いってことを感じました。今、実際にこの世の中で戦争が起こっています。私達は何もできず見守ることしかできないけれど、できることがあるのなら精一杯子どもたちを助けてあげたいです。

アンネの人生を通してナチス、戦争、民衆の残虐性がわかりました。責任は政治家だけでなく民衆にもあることについて考えることが出来た。生まれた環境、人種などにより優劣をつけられる悲惨さが伝わった。人とはなにかを少ししれた気がする。

アウシュヴィッツ収容所で、年齢や性別関係なく仕事ができないと判断された瞬間に「死」が決まってしまうとわかりました。また、仕事ができると判断されても、女性でも髪を刈られ、囚人扱いされることが今では、信じられないと思いました。ユダヤ人というだけで、人々から差別されることの社会が怖いと思いました。

【3年生】

アンネが日記を残したことで戦争の悲惨さや市民が全く安心して暮らせない状況だったことが伝わってきました。毎日殺されるかもしれないという恐怖と戦っていると考えると考えるだけで悲しくなりました。今後一生このような戦争が発生しないことを改めて祈ります。

アンネが実際に住んでいた家の模型やオランダ大使館から寄贈された本などとても貴重なものをたくさん見ることができました。そしてアンネの家族や隠れていた時どんなことを思っていたのか詳しく知ることができてよかった。

アンネはドイツのユダヤ虐殺が酷い時代に生きているとわかった。そしてヒトラーは民主的な方法で独裁者になったことが一番衝撃でした。ここから民衆にも責任があると思いました。正しい判断ができるようになっていきたいです。

アンネさんは作家になりたいと日記にかいていた。今私たち世界中の人々がアンネの日記をみてアンネさんの伝えたかったことや思いが汲み取れて、アンネの夢が叶っていたら嬉しい。隠れている間、アンネの想像を絶する不安や恐怖の気持ちが伝わった。

歴史の授業でユダヤ人のことについて少し習っていたけど、現代にはありえないことなのであまりはっきり当時のことが想像できませんでした。でも、詳しい説明や生々しい写真などを見て本当につらく、残酷だったんだなと感じました。こんなことが将来絶対起こらないように今ある平和を大切にして日々過ごしていこうと思いました。

あまりにも実際に起きていた事とは思えないほど、非人道的な出来事だと感じました。収容所に来たユダヤ人の眼は生力を感じられず、どれだけ収容所を恐れていたのかがとて分かりました。

4. その他

- ・パネル展単独ではなく、1ヶ月かけてアンネ・フランクについてじっくりと考える機会を設けたことで、最後の感想に関しても深く考えた内容が多かったように思う。
- ・中学2年生・3年生にもなると、日本語と英語の2つを比べながら見ているのが印象的だった。平易な英語で書かれていたので、生徒にとっても非常にわかりやすかったようだ。

